

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

		北海道			
目的	施設整備により、輸出向け製品の増産による付加価値向上が図られるとともに、増産傾向にある国内向け製品の製造を可能とする。				
目標	ホタテ冷凍製品の増加	28-9			
事業実施主体	枝幸漁業協同組合				
実施地区	枝幸地区				
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度			
	平成29年度	令和3年度			
助成金額	151,225千円				
事業計画の内容	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍設備一式 トンネルフリーザー 750kg/h 1基 他付帯設備工事 ホタテX線ランク選別機 1台 				
評価	取組の目標（KPI）	漁業者の漁業所得向上			
	基準年	平成25年度 漁業所得	6,238千円		
		現状値	令和3年度 漁業所得	23,050千円	増加率 269.51%
		目標値	平成30年度 漁業所得	6,898千円	増加率 10.58%
	成果目標	冷凍加工処理能力の強化によるホタテ冷凍製品製造量の増加			
		現状値	令和3年度 年間玉冷製造量 815t		
		目標値	令和3年度 年間玉冷製造量 1,346t		
	(1) 現状値の説明	<p>天然貝の増加や歩留まりが低下し、小型組成となったことから、前処理（貝から貝殻とウロを分離する作業）に人手を多く配置することとなり、玉冷製造量が下がった。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響により、海外輸出量が減少したこと、さらには外国人技能実習生が来日出来ないなどの影響により製造量が下がった。</p>			
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	施設が整備されたことで、ホタテガイの価格が安定したことで漁業所得の向上につながった。また、雇用の場を創出することにつながった。			
	(3) 所見	施設整備により、EUをはじめとする海外輸出量が増加傾向にあったが、新型コロナの影響により減少したものの、価格の安定・向上が図られ、競争力強化の面において大きな役割を果たしたと言える。			
(4) 評価機関への意見等	該当なし				
今後の改善方向等に関する分析	関係機関と連携して海外輸出の増大と国内向け製品の増大につなげ、より一層の漁業所得向上につなげていく必要がある。				

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

		北海道		
目的	追直漁港に製氷貯氷施設を整備し、安定した氷供給体制を構築することにより、漁業経営基盤の強化を図る。			
目標	施氷品質向上による魚価向上	29-1		
事業実施主体	室蘭漁業協同組合			
実施地区	室蘭地区			
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度		
	平成30年度	令和3年度		
助成金額	270,350千円			
事業計画の内容	追直漁港に製氷貯氷施設を整備することにより、安定した氷供給体制の構築、流通形態に応じたプレート氷・窒素氷の導入による施氷品質改善、高鮮度出荷を実現し競争力の強化を図るとともに、氷販売作業の自動化により重労働・危険作業を改善する。			
評価	取組の目標（KPI）			
		基準年	（平成25年度） 漁業所得 286,100千円	
		現状値	（令和3年度末時点） 漁業所得 148,491千円	増加率 -48.1%
		目標値	（平成30年度） 漁業所得 318,815千円	増加率 11.4%
	成果目標		窒素氷が製氷可能な製氷・貯氷施設の整備を通じて、27,235千円/年の魚価向上を図る。	
		現状値	（令和3年度末時点） 218,614千円	鮮度保持対象魚種水揚げ額
		目標値	（令和3年度末） 505,038千円	達成率43.3%
	（1）現状値の説明		対象魚種は、氷供給量が多く鮮度保持効果が高い沖合底曳網漁業の箱詰め魚種による。年度については、直近の令和3年度末時点とした。	
	（2）地域への経済効果		これまで沖合底曳網漁業、さけ定置漁業等、利用が限定されていたが、プレート氷・窒素氷の評価に加え、稼働時間が24時間になったことから、沿岸漁業者や仲買人の利用環境が大きく改善された。	
	（3）所見		新型コロナ禍の影響により、水産物の消流停滞・消費形態の変化による魚価安が顕著になる中、プレート氷・窒素氷の高評価もあり、その影響を最小限で抑えることが出来た。また、水道光熱費の安定により当初計画よりも維持管理費を抑制することができ、漁業者の所得向上に加え漁協の経営の安定も期待できる。	
（4）評価機関への意見等				
今後の改善方向等に関する分析		整備した施設を継続して使用し、安価な氷の安定供給、プレート氷・窒素氷の利用による魚価向上による競争力強化を図る。		